

東
北
大

きょうかん

発行
東北大学教育学部
関東地区同窓会

事務局
〒154-0015
世田谷区桜新町2-21-309
(今野正保方)
電話 03-3420-5374

ふたつの感謝

東北大学教育学部関東地区同窓会会長

笹川智恵子



教員採用汚職事件、あいづぐ食品の産地偽装、家庭内殺人を含む殺人事件の多発、と耳目を覆いたくなるようなニュースに見舞われる連日――。が、嘆くばかりでは悲しすぎる。自分を元気にさせてくれたふたつの感謝のことを書いてみよう。

『文豪・夏目漱石――そのころとまなざし』と題された冊子がある。東北大学創立一〇〇周年にあたる昨年、催された諸イベントのうち、江戸東京博物館で開催された記念展のガイドブックである。東北大学附属図書館が所有する「漱石文庫」から蔵書、原稿、日記、書簡などが多数出展された。漱石関係の書物の口絵などに使われる写真に「漱石文庫蔵」というキャプションを見るたびに、知らなかった、と悔しい思いをしたものである（もつとも、一般には公開されていなかったのだが）。それらを実物で見ることができた。学生時代の身体検査記録、書き込みや教師の似顔絵のある教科書、英国への渡航日記、ロンドン案内地図などがふんだんにあり、図録を眺める今も、これらの実物に接したときのワクワク感がよみがえる。個人の蔵書

を一括管理する「特殊文庫」という方式で知の財産をきちんと継承してくれた（これこそ教育の原点ではないか）大学に感謝なのである。

もうひとつ。この五月、関東地区同窓会創設二〇周年記念の、仙台を訪ねる旅に参加した。詳細は別稿をお読みいただくとし、初めてお目にかかる方が多いにもかかわらず、緑あふれる懐かしいキャンパスで、久しぶりの秋保・松島の地で、世代を超えた交流ができたことは嬉しかった。とくに川内キャンパスでの、細川先生はじめ、同窓会役員の皆さまのお心のこもったご案内には、たとえ風景はかわっても、卒業後十年を経た者を学生時代に一気に引き戻してくださる温かさを感じた。素晴らしい思い出づくりにご尽力くださった方々に感謝いっぱいである。

さて、本年総会は筑波技術大学学長の大沼直紀先生にご講演をお願いした。私自身、家族に高齢者を抱える者として演題には大いに関心があり、楽しみである。

皆さま方のご出席を心よりお待ちしております。

第10回 東北大学教育学部関東地区同窓会総会・懇親会のご案内

第10回総会・懇親会を下記のとおり開催いたします。同窓生の皆様が旧交を温め、交流を広げるチャンスにしたいと存じます。ご多用のこととは存じますが、是非ともご出席いただきたくご案内申し上げます。出欠のご返事は、10月25日（土）までに事務局あてお寄せください。

東北大学教育学部関東地区同窓会会長 笹川智恵子
記

- 開催日 平成20年11月14日(金) 18時30分より
- 会場 アルカディア市ヶ谷

(詳細は2ページをご覧ください。)

ご挨拶

東北大学教育学部同窓会会長
大学院教育学研究科長・教育学部部長

細川 徹



初めまして。昨年より学部長・研究科長を務めさせていただいております。細川です。関東支部の皆さまには、東北大学創立百周年事業の際も多大な協力を賜り、誠にありがとうございました。また、皆さまの日頃からの活発なご活動に改めて敬意を表する次第です。

教育学部は間もなく還暦を迎えますが、卒業生も全国各地で活躍していることは喜ばしい限りです。とは言え、半世紀を経て、同窓会は今見直しの時期に来ているように思います。本来なら、新しい卒業生が次々に加わり、会も活性化していくべきところですが、実際はそうなりません。このままの状態では推移しますと、十年も経たないうちに同窓会の実体は無くなってしまおうのではないかとさえ危惧されます。

若い世代が同窓会に関心が無い理由はいくつかが考えられますが、何よりも、同窓会を魅力的なものにする、あるいは卒業生にとって有意義なものにする努力が私どもに欠けていたことを率直に反省しております。私見ではありますが、同窓会を大学の外にある任意のボランティア的組織としてのみに位置づけるのではなく、現在の学部・研究科と積極的に連携

する組織と位置づけることはできないかと思っております。

私の考えます次世代の同窓会は、会員間の情報ネットワーク機能を備え、生涯学習の場としても活用でき、さらに後輩の育成のために学部・研究科に対して意見を述べる役割も担えるものです。たとえば、同窓会の代表が学部・研究科の運営懇談会のメンバーとなることも考えられますし、同窓会の基金(少額でも)によって独自に学生を支援することも可能です。もちろん、親睦を基盤とする同窓会ですから、集まると心が和むという暖かさが必要だと思います。

そんな理想をどうやって実現するのかと考えると、「日暮れて道遠し」ですが、ともかく歩き出すことが肝心というところで、同窓会の根幹となる会員の現状把握のための、新たな名簿づくりの作業を開始したところでございます。それすらできていないのか、と驚かれるかもしれません。が、実はこの作業、過去にも失敗を繰り返しておりますが、その理由はいくつかありますが、今回は背水の陣で臨んでおりますので、皆さまのご賛同と一層のご支援を賜りますようお願いよりお願い申し上げます。

第10回 東北大学教育学部関東地区同窓会総会・懇親会

- | | | | |
|----|---|--------------------------------------|--|
| ①日 | 時 | 平成20年11月14日(金) | 18時30分より (18時受付開始) |
| ②会 | 場 | アルカディア市ヶ谷 (私学会館) | |
| ③総 | 会 | 18時30分 | |
| ④講 | 演 | 18時50分 | ☆講師 大沼直紀氏 (心身障害学 '65年卒)
☆演題 「長寿と聞こえのケア」 |
| ⑤懇 | 親 | 19時30分 | |
| ⑥会 | 費 | 8,000円 (当日受付にてお支払いください。) | |
| ⑦申 | 込 | 10月25日(土) までに、同封の返信用はがきで出欠をお知らせください。 | |
| ⑧問 | 合 | 同窓会事務局 今野正保 TEL・FAX 03-3420-5374 | |

インフォメーション

☆講師 “大沼直紀氏” のプロフィール

1965年、東北大学教育学部(心身障害学)卒業、宮城聾学校に勤務後、ワシントン大学医学部附属中央聾教育研究所に留学し、聴覚補償学(audiology)を修める。国立特殊教育総合教育研究所聴覚教育研究室長(4年間)、筑波技術短期大学教授(15年間)を経て、2003年に聴覚・視覚障害者のための我が国唯一の国立大学である筑波技術大学の学長に就任(現在6年目)。昭和大学医学部耳鼻科で聴覚・補聴器外来を10年間担当し医学博士。日本聴覚医学会評議員、全国補聴器専門店認定委員会委員。障害者国際大学連合日本代表、アジア諸大学の客員教授。聴覚障害者の教育研究に携わり44年。

☆会場 “アルカディア市ヶ谷”

アルカディア市ヶ谷(私学会館)はJR中央線市ヶ谷駅の近くで、靖国通り沿いにあります。外濠に面しており、抜群のロケーションです。宿泊もできます。

所在地 千代田区九段北4-2-25 電話 03-3261-9921

アクセス JR中央線、地下鉄有楽町線・南北線・新宿線の市ヶ谷駅より2分

同窓生の声

平成十九年九月、「学びの故郷仙台を訪ねる旅」の出欠のご返事に添えられていました同窓生のみなさまのメッセージです。

野崎 智

(学校、54年卒)

私は仙台を離れてほぼ五十年になります。同地は生まれ故郷であり、また父が遺してくれた墓所が青葉神社近くの菩提寺にありますので、今もって、年に数回は帰仙します。その折には近郊を訪ね歩き、また、小学校から高校までの同級生では宮城県内の各所へ参ります。これからも元気で、古里訪問を続けてゆきたいと思っています。末筆ながら、貴会の益々の御隆盛と諸兄弟の御健勝を願いたします。

赤間 啓介

(行政、57年卒)

○四年一〇月、仙台の白萩荘での教育学部三期会に参加、翌日仙台支部の理事で山岳部で同期だった三橋君の車で思い出の場所を回りまし

た。川内の立派な教育学部の建物にも入って、往年をかえりみて感無量でした。

渡辺 淑子

(学校、57年卒)

中野区の教育委員を辞めてからは自由な生活で、四月から十一月までは東京と那須の間を車で往復しています。また、先日は東北大学創立一〇〇周年祝賀会に行ってきましたが、久しぶりの片平キャンパスはなつかしく満ち足りた一日でした。ご連絡ありがとうございます。

上條 信治

(哲学、57年卒)

皆様には御元氣のこととお慶び申し上げます。私は第二の人生も長くなりりましたが、相変わらず大学の教壇に立っております。

高橋 哲

(心障、57年卒)

故郷が秋田ですので、帰省の度に仙台にはちよくちよく寄っています。マンションやホテルの高層ビルが乱立する街は、市電が走っていたあの頃の仙台のイメージとかけ離れ

ていて…。
老いの坂を加速をつけてころげ落ちていく感じですが、好きなアルコールと麻雀はやめられないでいます。

高橋 睦人

(学校、60年卒)

おたよりを拝見していると学生時代をすごした頃の仙台のまちなみがい出しされます。当時第三教養部とも呼ばれた「東北劇場」、東一番丁の音楽喫茶「未完成」、大学横の古本屋街。いろいろと歩き回って、青春時代の活力を取り戻したいと思えます。

藤枝 静正

(行政、60年卒)

みなさまお元氣でしょうか。大学教師生活四十三年目。もうすぐ卒業致します。

大野 忠

(社会、61年卒)

仙台学生会館が学生時代四年間の住処でした。ここで、全学部の方々と接触したのが財産になりました。一〇数年前、その所在地の北山に

いったのですが、街がかわっていきわかりませんでした。
「きょうかん」のおたよりをいただきと仙台での生活を思い出します。世話人の方々に感謝しております。

田崎美津江

(心理、61年卒)

八月末、大学創立一〇〇周年関連行事に参加しました。在学中合唱団に所属し、五〇周年も参加したので、みんなで行こうよというので、現役学生といっしょに第九や祝典曲（オリジナル）を歌いました。

大学も変わり、仙台も変わり、浦島花子でしたが、結構楽しい思い出しました。

三浦 淳子

(学校、61年卒)

二〇年来続けておりました塾も少子化の波を受けて閉鎖寸前です。二女高時代から続けてきましたお茶もヒザ痛に悩まされ、医者に座ること禁じられ、社交ダンスを薦められ、その魅力にとりつかれています。良い運動になります。

外国へは90カ国位訪問しましたが、危険な国のみ残り、最近はグローバル化が進み面白さがなくなりました。

岡崎 豊

(心理、63年卒)

創設時の幹事の一人として、名簿整理や「きょうかん」発刊の編集など当時を懐かしく思い出します。あれから二〇年になると思うと感無量のものがあります。仙台に行きたいところですが、体調面のこともあり、遠慮します。盛会を祈っています。

杉浦 洋一

(社会、63年卒)

社会保険労務士事務所勤務して五年になります。

鈴木 丕子

(社会、65年卒)

仙台は主人の勤務によって、又、娘の嫁ぎ先として縁の深い土地となりました。「きょうかん」の中に昔の同僚の名を見付け懐かしい思いです。

猪又 和子

(学校、66年卒)

私にとって仙台は青春の一ページ。思いで多き地ではありますが、

父母が東北を離れてからは足が遠くなりました。旅への郷愁はありますが、母の介護、地域の運動(電磁波ビル反対)に加え、自分自身の病院通いとゆとりがなく、残念ですが参加できません。東北大の発展と皆様の健康をお祈りいたします。

相馬 敬司

(学校、66年卒)

四十五年前の仙台駅、川内や片平のキャンパス、なつかしいですね。東北ゼミナル研究会、宮教大、青葉山移転、自治侵害事件とつづいたことも印象深いことでした。

冬の寒い日、音楽教材のピアノの練習、体育のけあがりの練習、夕日がぼやける程鉄棒にしがみついていた。たくましくやさしい友人にささえられて私も含め多くの若者が成長していききましたね。六〇年安保のあとの新しい芽ぶきを感じたものでした。あれから半世紀、「仙台を訪ねる旅」の提案で自分の生き方をふりかえる機会がえられました。ありがとうございます。

中川 典雄

(社会、66年卒)

二〇年の単身赴任を終了し、やつ

と自宅に落ち着いたところです。仙台も大分変化し、環境もかわりました。地域に密着した生活をスタートしたい思いが先行し、何かと新任地に着地した日々を過しています。時間をかけて、健康に留意して対応したいと思います。

菅田 美紀子

(心理、67年卒)

故郷が仙台なので帰仙は父母の墓参となりましたが、改めて二〇周年記念ならと思いましたが、平日は仕事があるのでむずかしいです。

教育学部での学問は私の人生に多大な影響を与えています。学生時代に何を学ぶかは本当に大切ですね。

薄木 正雄

(社会、69年卒)

夏季休暇を取り仙台に帰省したおり晩翠草堂に行ってみました。

三番の歌詞に
今荒城のよはの月
替わらぬ光たがためぞ
垣に残るはただかつら
松に歌ふはただあらし
と書いてありました。高校の時、

国語の先生が「かつら」ではなく「かずら」だと言っていたので質問した

ところ、係員は原本は戦災で焼けて残っていないので、わからないとの回答でした。

そのあと晩翠の母校立町小へ行ったら、校内に晩翠の資料館があり、校長から原稿の写しを見せてもらいました。それには「ただかずら」と記してありました。我々が知っている高名な詩でもまちがいがあるのだと感じました。

福田 昭夫

(行政、71年卒)

先頃の総会では大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。残念ながら今の政治状況は正に「一寸先は闇」の状態です。常在戦場で頑張っておりますので失礼させていただきます。

皆様によりしくお伝え下さい。

北館 博人

(社会、72年卒)

今は倉敷勤務ですが、二、三年前には浦安に戻ることになるでしょう。その時に会に出席するのを楽しみにしています。JFEグループには同窓(教育学部)の後輩がたくさんいます。

東北大学教育学部関東地区同窓会の20年の歩み

平成	歩み
元年	◎第1回設立総会〈7月21日に学士会館で、出席者は105名〉、会長は江川亮、事務局長は河田喬夫
3年	☆1月 「きょうかん第1号」創刊 ☆6月 同窓会名簿初版発行 ◎第2回総会〈7月5日に学士会館で、出席者は72名〉会長は江川亮、事務局長は河田喬夫
5年	☆1月 「きょうかん第2号」発行 ◎第3回総会〈7月9日に学士会館で、出席者は56名〉会長は江川亮、事務局長は河田喬夫
7年	☆7月「きょうかん第3号」発行 ◎第4回総会〈7月6日に学士会館で、出席者は35名〉会長は越河六郎、事務局長は小玉幸彦 ☆同窓会名簿第2版発行
9年	☆6月 「きょうかん第4号」発行 ◎第5回総会〈7月11日に学士会館で、出席者は30名〉会長は越河六郎、事務局長は徳田英明
10年	東北大学教育学部の学科改組
11年	東北大学教育学部創立50周年
12年	教育学研究科、教育学部の2部局制に

平成	歩み
12年	☆6月 「きょうかん第5号」発行 ◎第6回総会〈11月24日に学士会館で、出席者は23名〉会長は家根敏明、事務局長は中川典雄 ☆同窓会名簿第3版発行
14年	☆10月 「きょうかん第6号」発行 ◎第7回総会〈11月8日にホテルエドモンドで、出席者は51名〉会長は家根敏明、事務局長は中川典雄
16年	☆10月 「きょうかん第7号」発行 ◎第8回総会〈11月12日にアルカディア市ヶ谷で、出席者は36名〉会長は家根敏明、事務局長は今野正保 ☆同窓会名簿第4版発行
17年	☆11月 きょうかん臨時増刊号発行
18年	☆10月 「きょうかん第8号」発行 ◎第9回総会〈11月10日にフロラシオン青山で、出席者は35名〉会長は笹川智恵子、事務局長は今野正保
19年	☆8月 東北大学100周年記念式典 ☆8月 きょうかん臨時増刊号発行
20年	☆10月 「きょうかん第9号」発行 ◎第10回総会〈期日 11月14日会場 アルカディア市ヶ谷〉

《会報の創刊号より》

「…。東北大学教育学部関東地区同窓会に因み、教と関を採り、仮名書きで『きょうかん』とし、東北大を冠することにしました。『きょうかん』の文字に、仙台での日々に寄せる、お互いの共感、学びの故郷を旅立ってきた者としての郷関の寓意を託してみました。題字の揮毫は、江川亮会長にお願いしました。…」

平成10年に1学科5大講座に改組

- ①人間形成論講座（教育哲学・日本教育史・外国教育史等）、
- ②教育政策科学講座（教育社会学、教育行政学等）、
- ③成人継続教育論講座（成人教育論・リカレント教育論等）、
- ④教授学習科学講座（教育心理学、カリキュラム論等）
- ⑤人間発達臨床科学講座（生涯発達心理学・コミュニケーション障害学・発達障害学等）

創設二十周年記念 学びの故郷 仙台を訪ねる旅

東京を出る五月二〇日の朝は台風で大荒れ。でも仙台に行きたいとの思いで強い風雨の中を出発しました。参加された方は一五名。

牛タンの昼食に満足しながらも、仙台の街は台風で大雨。しかし幸運にも片平キャンパスを散策する頃には雲が切れて青空が見られるようになりました。仙台支部の岡崎支部長、関口事務局長などに迎えられて川内キャンパスに向かい、教育学部を訪問しました。

はじめに、教育学研究科・教育学部棟の最上階の教授会などを行う会



教育学研究科・教育学部棟の玄関前にて
【右端に笹川会長、その左が笹田教授。左端に岡崎支部長、その右が関口事務局長】〈長谷川嵩氏撮影〉

議室に案内されました。そこは仙台市内を一望できる所で、細川学部長、同窓会担当の笹田教授の挨拶や説明をいただきました。その後、教育学部の施設を見学して、秋保温泉に向かいました。

岩沼屋での懇親会には仙台支部の五名の方が参加されて交流・懇親が盛り上がりました。翌日は五月晴れの好天の中、瑞巖寺、松島湾などを回って帰京しました。

大学の先生方、仙台の同窓の仲間にも温かく迎えられて学びの故郷、青葉もゆる仙台の良さを実感できた旅でした。

仙台を訪ねる旅に参加して

村井 緞子 (学校、60年卒)

この度「学びの故郷仙台を訪ねる旅」に出席させていただきました。初めてのことであり、又学校教育に携わったことのない(教育実習のみ)私が厚かましいかなと思いつつも参加させていただきました。



会議室より川内、仙台の街を一望 〈横館厚太氏撮影〉

何人位見えるのか、どんな方が見えるのか、恐る恐る上野駅から新幹線に乗りましたが、大宮あたりからは心配は無用となり、本当に楽しい旅でした。

乗車券の手配から食事の配慮まで、全て至れり尽くせりで台風も逃げ出た位です。

新緑あふれるキャンパス(私たちの頃とは大違い)、懇親会、松島遊覧、どれも心に残る楽しいものでした。

それにつけても事務局の方、幹事さんの御苦労に心から感謝申し上げます。又次回もお声をかけてください。ありがとうございました。

第九回総会・懇親会の報告

平成十八年十一月一〇日(金)午後六時半から港区青山のホテルフロラシオン青山において開催されました。出席者は三十五名でした。

総会では会長挨拶に続いて、教育学部同窓会を代表してご出席いただきました大学院教育学研究科長・教育学部長の荒井克弘氏にご挨拶をいただきました。大学改革の理念や構想、東北大学創立一〇〇周年記念事業などについて語られました。予算、活動、役員に関する議決事項も承認され、第九期がスタートしました。

第二部は今国会でご活躍している民主党の衆議院議員である福田昭夫氏(行政、71卒)が「今こそ分度推譲のとき」と題して講演されました。二宮尊徳の報徳思想の中の「分度(経営の確立)」、「推譲(自讓・他讓)」を基底に、日本の現状、尊徳思想の真髓、積小為大について話されました。「日本と日本人の再生、世界平和のために」二宮尊徳思想を学び、普及することがとても大切なことが感得できる講演でした。

第三部の懇親会では再会を喜び合い、仙台の思い出、今の東北大の様子、仲間のことなど楽しく語り合う輪がありました。

第9期 役員

顧問	会計監査	(運営)	(総務)	幹事	事務局長	副会長	会長																				
藤沢 勇	荒木 敏明	家根 六郎	越河 良衛	大曾 根良衛	菊地 明	小林 幸一郎	江川 亮	高橋 敏行	菊谷 邦雄	奥住 秀之	木戸 裕	鬼 宗久	小 順子	小玉 幸彦	星 永揚	高橋 良彰	田沢 良介	藤野 博	小林 昭文	徳田 英明	中川 典雄	新井 雄啓	今野 正保	阿部 孝	堀籠 英夫	笹川 智恵子	
(行政)	(行政)	(社会)	(心理)	(哲学)	(学校)	(社会)	(心理)	(心障)	(社会)	(心障)	(哲学)	(学校)	(心理)	(社会)	(社会)	(心障)	(心障)	(心障)	(哲学)	(心理)	(社会)	(行政)	(学校)	(行政)	(社会)	(哲学)	(哲学)
59	58	57	57	55	55	55	55	62	60	91	74	69	69	68	66	65	62	84	76	69	66	63	66	69	61	69	
																										○印 新任	

●第8期 収支決算書 (自/平成16年11月至/平成18年10月)

1. 収入の部 (△は予算超、単位：円)				2. 支出の部 (△は予算超、単位：円)			
科 目	予算額	決算額	差 額	科 目	予算額	決算額	差 額
1. 維持会費	600,000	609,000	9,000	1. 運 営 費	250,000	167,293	△82,707
2. 寄 付 金	10,000	5,000	△5,000	2. 活 動 費	380,000	282,240	△97,760
3. 雑 入	5,000	60,647	55,647	3. 需 用 費	110,000	98,946	△11,054
4. 繰 越 金	151,358	151,358	0	4. 予 備 費	26,358	0	△26,358
合 計	766,358	826,005	59,647	合 計	766,358	548,479	△217,879

※第9期への繰越金は、277,626円
(収入決算額合計 826,005 - 支出決算額 548,479 = 277,526)

●第9回 総会・懇親会収支計算書 (平成18年11月10日開催)

1. 収入の部 (単位：円)			2. 支出の部 (単位：円)		
科 目	金 額	備 考	科 目	金 額	備 考
総会・懇親会費	245,000	7,000 × 35	会場費、宴会費	311,445	講師、来賓へ
雑 入	91,380	祝金、一般会計	謝礼、手土産等	24,935	
合 計	336,380		合 計	336,380	

●第9期 収支予算 (平成18年11月～20年10月)

1. 収入の部 (△は減額、単位：円)				[第9期の活動方針]	
科 目	第9期予算額	第8期予算額	対前期増減	摘 要	会員相互の親睦と交流を本旨とし、本会の一層の充実発展を目指し、会員の意見、提案を反映させる「会員参加の同窓会」を運営の基本とする。この趣旨にもとづき、会員の理解と協力を得ながら、次の活動を堅実に継続推進する。 (1) 会員交流の拡充 (2) 東北大学創立100周年記念事業の協力 (3) 会報「きょうかん」の発行 (4) 第10回総会の開催 (5) その他
1. 維持会費	600,000	600,000	0	3,000円 × 200人	
2. 寄 付 金	10,000	10,000	0		
3. 雑 入	5,000	5,000	0		
4. 繰 越 金	277,526	151,358	126,168		
合 計	892,526	766,358	126,168		
2. 支出の部 (△は減額、単位：円)					
科 目	第9期予算額	第8期予算額	対前期増減	摘 要	
1. 運 営 費	300,000	250,000	50,000	3役会、幹事会	
2. 活 動 費	430,000	380,000	50,000	会報	
3. 需 用 費	140,000	110,000	30,000	郵送	
4. 予 備 費	22,526	26,358	△3,832		
合 計	892,526	766,358	126,168		

きょうかん 第9期 (平成18年11月～平成20年10月) 維持会費協力のみなさま

納入ありがとうございました。(194名、敬称略、卒業年度順)

- | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|---|---|---|--|--|--|
| <p>【教育哲学 16名】
 大曾根良衛 上條信治
 牧 薫 沼田裕之
 若林 滋 青柳 進
 伊藤忠篤 笹川智恵子
 古橋康子 鈴木重男
 白田わか子 戸張嘉勝
 小林洋子 小林昭文
 高松典子 伊藤久徳</p> | <p>【教育社会学 53名】
 小林幸一郎 鈴木諱弘
 家根敏明 大寄 晋
 野原忠博 長谷川嵩
 太田武久 太田淑子
 菊谷邦雄 石塚米子
 大野 忠 堀籠英夫
 越中屋淳一 榎 正幸
 吾田壹明 清水勝夫
 杉浦洋一 西村孝雄
 浅野 勉 池田 公
 室岡英夫 鈴木俊之
 中林勝男 阿部 実
 佐藤千代乃 中川典雄
 星 永揚 今野勝利
 佐久間孝正 千條 武
 巽駒太郎 小玉幸彦
 齋藤貞夫 細谷綾子
 薄木正雄 野島節子
 棟形さつき 北館博人
 市塚 守 佐々木昭美
 佐々木博 津吹 茂</p> | <p>【教育心理学 24名】
 大村 実 江川 亮
 針生可代子 越河六郎
 磯部裕子 奥泉英夫
 位田尚隆 岡崎 豊
 野田耕造 黒住ひろ子</p> | <p>【教育行政学 34名】
 井腰伯子 半田扶美子
 小泉信三 佐々木浩
 佐々木牧子 沼尾立子
 飯野健児 歌代真人
 大野正利 鈴木英一
 梶塚典子</p> | <p>【心身障害学 19名】
 佐藤秀一 庄司光徳
 小原弘三 高橋 哲
 鈴木貞夫 高橋敏行
 田沢良介 大沼直紀
 高橋良彰 北川千鶴子
 出口利定 落合俊郎
 細淵富夫 伊藤良子
 鷲尾純一 諏訪幸子
 北島善夫 三浦得雄
 齋藤政通</p> | <p>【学校教育学 48名】
 板井啓修 及川 元
 高橋典英 田邊孝志
 小野寺久子 佐藤邦雄
 野崎 智 堀内純子
 安田養次郎 熱海則夫
 梶原 葉 菊地 明
 志子田宣生 篠 博久
 辻 寛 北山満美
 高橋渥子 中井ちとせ
 渡辺健郎 石坂清子
 大金武文 渡辺淑子</p> | <p>【教育哲学 16名】
 井腰伯子 半田扶美子
 小泉信三 佐々木浩
 佐々木牧子 沼尾立子
 飯野健児 歌代真人
 大野正利 鈴木英一
 梶塚典子</p> | <p>【教育心理学 24名】
 大村 実 江川 亮
 針生可代子 越河六郎
 磯部裕子 奥泉英夫
 位田尚隆 岡崎 豊
 野田耕造 黒住ひろ子</p> | <p>【教育行政学 34名】
 赤間啓介 加納正巳
 荒木 廣 木村正次
 須貝幸雄 牧 昌見
 清水俊雄 徳江 明
 藤沢 勇 太田智朗
 藤枝静正 秋田義明
 川島春夫 佐倉三雄
 齋藤哲至 新井雄啓
 佐藤 全 稲葉雅彦
 望月 久 小林順子
 阿部 孝 熊谷 晃
 加藤正彦 福田昭夫
 鈴木健一 銭谷真美
 廣池幹堂 増淵 実
 浅野良一 高山祥正
 高橋寛人 原 祥子
 小澤恵子 長沼真吾</p> | <p>【心身障害学 19名】
 柴田洋子 馬場 順
 石倉正身 加藤万喜子
 川野恵子 佐々木馨
 高橋睦人 村井綾子
 戸塚 肇 三浦淳子
 金野久子 遠山泰子
 渡辺成男 丹野光穂
 渡辺登美子 木村益子
 猪又和子 今野正保
 鈴木保一 相馬敬司
 吾妻順子 横館厚太
 小竹里子 栗原孝義
 鬼 宗久 菊地 洋</p> |
|--|--|--|--|---|---|---|--|--|--|

第10期(平成20年11月～平成22年10月) 維持会費納入のお願い

東北大学教育学部関東地区同窓会は第9期を終了し、第10期の活動に入ります。同窓会活動は会員みなさまからご協力いただいております維持会費(2年間で3000円)により支えられております。第10期も、ご協力いただきますようお願い申し上げます。
 つきましては、同封いたしました「郵便振込票」で平成20年12月末日までに、維持会費の納入をお願い申し上げます。

東北大学教育学部関東地区同窓会
 会長 笹川智恵子

●連絡先 事務局 今野正保
 TEL・FAX 03-3420-5374
 メール mayu@dn.catv.ne.jp



「きょうかん」の旗印のもとに結成された関東地区同窓会も、節目の二十年を迎えました。皆様のご協力に心から感謝いたします。寄せられた玉稿に接し、心の故郷・人との縁・人生の活力源としての母校の存在感を再認識させられました。教育学部改組で本部連携がやや疎遠になりがちな昨今、細川学部長のご提案と思いは同じです。同窓会活性化のため皆様のご支援をお願いいたします。

(星)

編集後記